

【草花の部屋】

サンテッドゼラニウム

(フウロソウ科テンジクアオイ属 Pelargonium Scented-leaved Hybrids)

和名：サンテッドゼラニウム

別名：ニオイゼラニウム、ニオイテンジクアオイ **英名**：

フウロソウ目 ハーブ、多年草 **原産地**：南アフリカ

花言葉：好み、思いがけない出会い、真実の愛情、決心

花の色：白、赤、桃、紫、復色



←↓ 写真- 1、 2 サンテッドゼラニウム
～ローズ

撮影日：2019 年 04 月 12 日

撮影場所：布引ハーブ園

(神戸市)にて

撮影者：M さん



神戸市の布引ハーブ園のプランターに植栽されていました。花期になると、上部の茎の葉の付け根から花序を出し、花径 1～2 cm 程度の花を咲かせます。一つの花序には 2～9 輪の花が付き、花はやや大きい上側 2 枚の花弁と、やや小さい下側 3 枚の花弁を持っています。

テンジクアオイ属(ペラルゴニウム属)の中で特に芳香の放つ種類のことを総称してセンテッドゼラニウムと呼ばれているそうです。様々な種類があり花の色や形もバラエティーに富んでいるそうです。

花にはほとんど香りはありませんが、茎や葉に芳香があります。品種によって使い方はやや変わりますが主に料理やハーブティー、小さなブーケなどに利用されるそうです。代表的なローズゼラニウムの他、オレンジやレモンなどの柑橘系の香りを持つ品種や、ジンジャーなどスパイス系の香りを持つものなど様々で、ヨーロッパでは古くから香料として盛んに栽培されているゼラニウムだそうです。

高温多湿を嫌い、日本の夏が苦手です。7～8月頃に風通しをよくするために切り戻しを行うと良い(あまり伸びていない場合や茎葉が混み合っていないければ無理に行う必要はありません)。秋には収穫を兼ねて切り戻しを行います。この植物が持つシトロネラルという成分を昆虫が嫌がるため、蚊よけの効果があるとも言われます。

ふやし方

タネまきや、挿し木で増やすことができますが、挿し木で増やす方が簡単だそうです。挿し木の適期は真夏を除いた生育期です(4～6月・9～11月)。元気な枝を先端から10cmほどの長さに切り取り、砂やタネまき用の土に挿します。1ヶ月ほどで根が出るので根が出たものを鉢に植え付けると良い。ゼラニウムの茎は水分が多く、そのまま植えると切り口から雑菌が入って枯れてしまうことがあるので、日陰に1日置いて切り口を乾燥させてから挿すと良いそうです。